

What year is this?

contents

question 01 4

question 02 6

question 03 7

question 04 8

question 05 9

question 06 11

question 07 13

question 08 15

question 09 17

question 10 19

question 11 21

question 12 23

question 13 24

question 14 26

question 15 28

question 16 30

question 17 32

question 18 34

question 19 36

question 20 38

question 21 40

question 22 43

question 23 45

question 24 48

question 25 52

question 26 54

question 27 56

question 28 58

question 29 60

question 30 62

question 31 64

question 32 66

question 33 68

question 34 71

question 35 74

question 36 76

question 37 79

question 38 81

question 39 84

question 40 87

question 41 90

question 42 92

question 43 95

question 44 98

question 45 101

question 46 104

question 47 108

question 48 112

question 49 117

question 50 121

threshold 124

2025 年 11 月から 2026 年 7 月にかけて執筆しました。

question 01

僕は骨のない男だ。

音楽と食事だけを生きがいにしている。それくらいしか言うことはないし、本当はそれすら口にしたくない性分だ。と言いつつ、大学の卒業制作で作ったものを世に公表してしまった。書籍として販売し、今ではプロフィール欄のリンクから読める。今でも、よくまあそんなことをしたものだと思う。文章を書くのは嫌いではないが、人に見られるのは得意ではない。

僕の所属していた研究室には、「何かを形にしないと卒業制作として認められない」という決まりがあったため、やるしかなかった。ならばと、風景と音楽についての ZINE を作った。自伝、エッセイ、ディスクガイドのようなこの ZINE を作ったことで、会いたい人に会えたり、思いがけない関係が生まれたりした。

音楽が好きだと言っても、「どういうの？」と聞かれると説明が面倒で閉口してしまう。その代弁をしてくれるので、非常に便利でもある。さらに、「どう聴くか」という態度まで書き込んだので、名刺代わりには十分だった。

とはいえ、今では目も当てられない。誤字は多いし、言い回しは変だし、選盤にも改善の余地がありすぎる。それでも、手に取ってくれた人からは「文章は書き続けているのか?」「続きは作らないのか?」と聞かれる。そのたびに、「卒業のためだったから書いただけです」とお茶を濁してきた。そもそも文章を公開することは、知性と感性を丸裸にするようなもので、これ以上に恥ずかしいことはないと主張してきた。

先日、同僚が「日々の雑談用にと取ってあるメモを、広げるだけでいいから書いてみたら」と言ってきた。脊髄反射のように、いつも通りのセリフを返した。

だが、帰り道になんとなく iPhone のメモをいじってみると、あっという間に最寄り駅に着いていた。これは楽しいかもしれない、と思った。ただ、続けるにはルールが必要だと気づき、次の 3 つを決めた。

1. 「僕は骨のない男だ。」から始める。

書き出しに悩まないし、必要以上に卑下しなくて済む。

2. 疑問文で終わる。

終わり方に迷わないし、強い主張を残さなくていい。

3. 1 曲を選ぶ。

言葉にすると野暮になるニュアンスを補ってくれるかもしれない。

日々感じたことや気づいたことを、自分のペースでまとめていこうと思う。

書き続けた先に、僕はこの試みを「やってよかった」と思えるのだろうか？

What's Wrong With The World? – Fairground Attraction